SOPHIA 110TH ANNIVERSARY 1913-2023

上智大学通信

第469号　2023年（令和5年）5月1日発行

編集・発行
上智学院総務局広報グループ
〒102－8554　東京都千代田区紀尾井町7－1
電話：03－3238－3179　FAX：03－3238－3539
www.sophia.ac.jp
[Facebook] www.facebook.com/SophiaUniversity
[Twitter] @SophiaUniv_JP

2023年度入学式

他者に寄り添うソフィアンとして大いなる成長を

入学式

4月1日、東京国際フォーラムにおいて2023年度入学式が挙行された。昨年同様、午前・午後の2回に分けて実施。本年度は、学部生2824人、大学院生473人、助産学専攻科生10人が入学した。

式は上智大学管弦楽部の奏楽で始まり、カトリック・イエズス会センターの李聖一神父（午前の部）、ホアン・アイダル神父（午後の部）による祝福では、聖書『マルコによる福音』の一節が朗読され、上智聖歌隊・上智大学グリークラブが聖歌を合唱した。

睦道佳明学長は式辞の中で、「コロナ禍や地震などの災禍による混乱、戦禍で露呈した国際秩序の脆弱さ、デジタル化やAIによって問われる人間社会の倫理など、社会のありようが変革の時を迎えています。このような時代背景の中で、新たなスタートラインに立つ皆さんを社会が期待と応援の眼差しでみつめています。コロナ禍などさまざまな困難に屈することなくここに集まった皆さんだからこそ、自分の個性を磨く学び、いわば学びそのものを創造的にデザインする力があると信じます。上智大学の教育精神『For Others, With Others』は、グローバル化、デジタル化の時代にあって最も大切にすべき精神的基盤です。上智大学という類い稀な学びの環境で、弱者のために、時に見知らぬ誰かのために、他者に寄り添うソフィアンとして大いなる成長を個性的に遂げられることを祈念しています」と、新入生を激励した。

新入生代表による入学の言葉では、障子若葉さん（総福／午前の部）が「これから学ぶことやそれぞれに与えられた良いものを用い、他者のために他者とともに生きる社会の実現のため貢献できるようになりたい」、高橋拓也さん（死生学専攻／午後の部）が「コロナ禍で断念してきた事柄に果敢にチャレンジし、自分の新たな可能性を切り拓いていきたい」と、それぞれ学生生活への抱負を述べた。

佐久間勤理事長は、「上智大学は今年創立110周年を祝います。創立当初から現在まで国際的な大学という特徴を保持し、時代の要請によりその特徴を新たな形で生かしてきました。私たちは個人として、人類共同体の一員として、さらには『共通の家である地球』の住民としての使命を持っています。今日入学された皆様が、やがて世界に羽ばたくソフィアンとしての使命を自覚して母校を巣立っていかれることを期待します」と祝辞を述べた。

続いて、濱口十志男上智大学後援会会長が「相手をよく知り、理解を深め、このキャンパスでかけがえのない素晴らしい友人に出逢い、学生生活を大いに楽しんでほしい」と新入生にエールを送った。

午前の部では2022年度学長賞の授与が行われ、受賞者の恩田泰成さん（外露4）が挨拶した。

式は、上智大学放送研究会（SBC）の光田有志さん（総グ4／午前の部）、梶原碧さん（文国4／午後の部）の司会により進行。

上智大学管弦楽部の演奏のもと、上智大学混声合唱団アマデウスコール・上智聖歌隊・上智大学グリークラブによる校歌斉唱で幕を閉じた。

2023年度入学式を午前・午後の2回に分けて挙行した（東京国際フォーラム）

式辞を述べる睦道佳明学長

午前の部新入生代表の障子若葉さん

午後の部新入生代表の高橋拓也さん

祝辞を述べる佐久間勤理事長

多くの新入生がミサに参加した

ミサ

入学式の後、聖イグナチオ教会で入学感謝ミサが行われ、静謐な雰囲気の中、多くの新入生と父母が参加した。

上智大学後援会新入会員歓迎会

2号館5階の学生食堂では、在学生の父母・保証人からなる上智大学後援会主催の新入会員歓迎会が行われた。新入会員のほか、後援会役員、教職員など合わせて183人が参加した。

新理事長が就任

学校法人上智学院は、4月26日開催の理事会において、サリ・アガスティン総務担当理事を新しい理事長に選任した。任期は2023年5月1日から26年3月31日（前理事長の残任期間）。総務担当理事については、後任が決まるまで同氏が理事長と兼務する。

□□□□

1968年インド・ケララ州生まれ。イエズス会員。2007年本学大学院外国語学研究科地域研究専攻博士後期課程修了。博士（地域研究）。07年文学部講師、09年神学部准教授、15年同教授、16年総合グローバル学部教授。学生センター長、学生総務担当副学長などを歴任。18年4月より上智学院総務担当理事。

四谷の風景を図案化

創立110周年記念ロゴマークが決定

学生が手がけた作品が採用

2023年、上智大学は創立110周年だ。4月10日、これを記念するロゴマークが決定した。

このロゴマークは学生や教職員からデザインを募集。応募総数60件の中から、選考委員会での審査を経て選定された。採用されたロゴマークは、今年度開催されるイベントや行事のほか、記念グッズ制作など、創立110周年の広報活動で広く活用される予定。

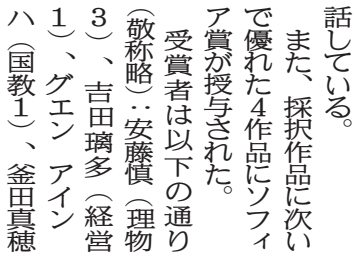
ロゴマークに採用されたのは、野村東生さん（文哲3）の作品。北から見た四谷の風景を図案化した。2つの「1」を表す長方形に施した装飾は、6号館の縦長の窓と、7号館のタイル状の窓がモチーフだ。また、「0」を表す円の下部のみに装飾を施し、四谷の象徴的な史跡である真田濠の形状を表現。四谷という地域との緊密な結びつきを訴求したという。

野村さんは、「真田濠・7号館・6号館という幅広い時代の建造物をモチーフに採用することで、四谷の歴史の一部として上智大学の歴史があり、それはこれからも続いていくというメッセージを込めた。伝統を背負いつつも、現代に生き、未来を志向するという上智の特徴を多層的に体現するデザインとした」と話している。

また、採択作品に次いで優れた4作品にソフィア賞が授与された。

受賞者は以下の通り（敬称略）：安藤慎（理物3）、吉田璃多（経営1）、グエン アインハ（国教1）、釜田真穂美（ウェルネスセンター職員）

採択されたロゴマーク

ロゴマークを考案した野村東生さん

4月18日には表彰式が行われた